

# 相模原障害者殺傷事件 どう受け止め どう考えるか



## ■第一部 (11:00-12:30)

「神奈川の現場より～亡くなられた方々のことと、現在の神奈川の動き～」

西角純志 氏 (津久井やまゆり園元職員、専修大学兼任講師。犠牲者の「生きた証」を追っている)  
ピープルファースト横浜 (知的障害者の当事者団体、やまゆり園入所者の地域移行を応援している)

(昼休憩1時間、昼食は各自でご用意をお願いします。)

## ■第二部 (13:30-15:00)

「事件についてそれぞれの思いを聴き、また語る時間」

発言予定：日本自立生活センター、ピープルファースト京都、家族、支援者、メディア他(裏面参照)  
(発言していただける方を募集しています。事前にご連絡いただけたら幸いです。)

## ■第三部 (15:00-16:30)

「事件の背景や今後の課題について」

熊谷晋一郎 氏 (東京大学准教授・当事者研究)  
「それでも他者とつながり生きる」(仮)  
尾上浩二 氏 (DPI日本会議副議長)  
「誰も取り残さない社会をめざして」(仮)

参加費:500円

2017年3月18日(土)

11:00～16:30

会場:京都テルサ 大会議室

京都駅から徒歩15分、九条駅から5分

(終了後、懇親会を予定しています。参加希望の方は事前に申し込み下さい。参加費 4000円程度)

主催：「国際障害者年」連続シンポジウム運営・実行委員会

協力：日本自立生活センター、車いすと仲間の会

ワークス共同作業所、自立支援事業所、ピープルファースト京都

後援 京都府、京都市、京都府社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会

助成：京都市人権文化推進課、(公財)京都新聞社会福祉事業団(申請中含む)



## ★ シンポジウム趣旨 ★

「相模原障害者殺傷事件 どう受け止め、どう考えるか」

この「国際障害者年」連続シンポジウムは、国際障害者年のテーマ「完全参加と平等」を推進するにあたり、国際議決「あらゆることに関して企画の段階から決定まで心身障害者の参加が重要である」との趣旨を基に、現実社会環境により多大な不利益を受けている障害者からの発言を中心に、そのときのテーマに添った専門家と討議を進めるものであります。

2016年7月26日に起きた相模原障害者殺傷事件は、私たち障害当事者や、この社会に生きる多くの人々に、大きな傷跡を残しました。この事件の後、いまだ言いようのない不安にさいなまれている人、気持ちの整理がつかない人、体調が不安定になった人などが多数おられます。

今回のシンポジウムは全体を3部に分け、まず神奈川県現場から、「亡くなられた方々のことと、現在の神奈川の動き」について、報告をいただきます。

次いで、事件についての様々な思いを多くの人の中で共有するために、多くの人に自分が事件をどう受け止めか、その後、どう感じているか、率直に語っていただく時間を設けます。

最後に、この事件について、積極的に発信されている方々から、事件をどう考えるか、残された私たちにとっての課題は何なのかなどについて、報告をいただきます。

事件は私たちに大きな傷を残しているため、今回のシンポジウムについては、相互に議論を闘わすというよりも、それぞれの立場から思うこと、考えることをそれぞれで確認できる場にしたいと考えています。

## 報告者プロフィール

**西角純志** 津久井やまゆり園元職員。専修大学兼任講師。事件で亡くなられた19名のうち、7名の方の支援に従事していた。現在、事件の犠牲者の「生きた証」を追い求めて活動している。NHKハートネットTV「匿名の命に「生きた証」を」出演など。

**ピープルファースト横浜** 知的障害者の当事者団体。事件後、ピープルファースト大会 in 横浜を開催し、全国の知的障害の仲間とともに、追悼集会を開く。その後、津久井やまゆり園の建て替えに異議を唱え、入所者の声を聞いて、地域移行を進めるよう、活動している。

**熊谷晋一郎** 東京大学准教授。当事者研究。小児科医。脳性まひ当事者。事件直後の8月6日に東京大学で「追悼集会」を開く。被害、加害の両側面から事件の背景を見つめつつ、この事件によって隔離や分断が進み時代が逆行することに警鐘を鳴らし、新聞、雑誌、ニュースなどで頻繁に発言している。著書に『リハビリの夜』(医学書院)他。

**尾上浩二** DP | 日本会議副議長。大阪青い芝の会出身。障害者権利条約批准に至る近年の日本の障害者制度改革を障害当事者の立場からリードしてきた。事件によって、隔離、分断、優生思想がさらに広まることを危惧し、真のインクルーシブ社会、誰も取り残さない社会を目指して活動し、政策提言や各種媒体への発信を続けている。

**第二部発言予定者** 佐々木和子(トライアングル)、岡本晃明(京都新聞)、平田義(重症心身障害者通所施設シサム所長)、松波めぐみ(大学非常勤講師)、日本自立生活センター、ピープルファースト 他

## 【問い合わせ先】

「国際障害者年」連続シンポジウム運営・実行委員会事務局

住所:京都市南区東九条松田町 28 メゾンガラス京都十条 101 日本自立生活センター(JCIL)内

電話:075-671-8484 FAX:075-671-8418 メール: [jcil@cream.plala.or.jp](mailto:jcil@cream.plala.or.jp)

※要約筆記あり。手話通訳又は点字資料ご希望の方は、3月9日(木)までに、上記までご連絡ください。